



題字 井口 文章
再刊 第445号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2024

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：59回生卒業式が行われました
陸上部がU20選抜競歩大会で好成績
二面：1年生探究、2チームが全国大会出場
ダンス部、春ステージを開催

錦のような景色に向けた旅立ち

59回生卒業式挙行政

3月18日(月)に第一体育館にて、59回生の卒業式が行われた。卒業生469名が錦城から旅立っていった。

訪れた旅立ちの日

暖かな春の日差しに包まれながら、59回生の卒業式が第一体育館で行われ、多くの保護者や来賓の方々も参列した。また、昨年は行われなかった校歌斉唱も実施された。卒業証書授与では卒業生469名全員の名前が各クラスの担任によって呼ばれ、クラスの代表が壇上で証書を受け取った。その後は賞状授与が行われた。



卒業式後に最後に集合写真を撮る

退場の際には吹奏楽部による『蛍の光』の演奏が行われ、会場からの温かい拍手と共に、59回生469名は錦城を旅立っていった。



卒業生にエールを送る

「自分を讀み下ろす」

阿部一朗校長先生は初めに、コロナ禍で不自由なこともあった高校生活について触れた。59回生は新型コロナウイルスによって、学校生活や行事など様々な面で制限されたにも関わらず、常に前向きに道を切り開いたとして「高校生として3年間やり切ったことを決して忘れず、自分と仲間を褒めて、讃えてください」と話す。加えて、自分の

在校生から絆なメッセージ

「フリージアの花が見事に咲き誇る季節となりました」という言葉から、送辞を読み始めた現生徒会長の山田拓仁さん(2区)。

自分のペースでゴールを目指す

陸上競技部U20出場

2月18日(日)、兵庫県神戸市で行われた第35回U20選抜競歩大会にて陸上競技部の早川愛花さん(2区)が15位という好成績を残した。10kmの5000m競歩に出場する事が多く、大会前にはスピードアップの練習を多く行ったという早川さん。今回は1分50秒ほどタイムを縮められたことが嬉しいと話している。



「自己ベスト更新を目指します」

とが今回の結果にもつながったのではないかと語る。競歩中はどうなことを考えているんですか?という質問に、早川さんは「1周1kmのコースだったので『あと〇〇km』と考えることが多かったです」と教えてくれた。同じペースの選手がいて、「追い越しちゃおうかな」と思うこともあったそう。無心で走るのでなく、レースの状況を考えて10km競歩に出場することはないと思います。5000m競歩で、自己ベストを更新したいです」と早川さんは今後に向けた思いを話している。

はじめに、59回生と過ごした「時間の早さ」から「ジャネーの法則」(一年を取るにつれ時間の経過が早く感じる現象)を紹介し、山田さんはこの法則に逆らう人生の体感時間を長くするため、3年間歩いた小平駅・錦城間の、往復の総合距離約2600kmを引き合いに出して「無意識の成果」の想起することを提案した。



入場時の最高の笑顔

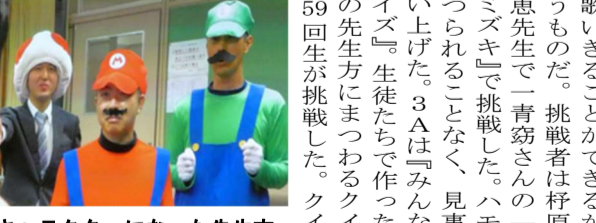
また、ポケモンの「ダイマモンドパール」、通称「ダイパ」を話題に挙げて笑いを誘う。59回生が入学した2021年には、ダイパのリメイク版が発売された。しかも、ダイマとパールの宝言葉はいずれも「純潔」。これは、冒頭に登場したフリージアの花言葉でもあると話を分けた。

この3年間が常に楽しかったかと聞かれたら、「はい」とは答えにくい、でも思い返すと楽しい思い出ばかりが浮かび上がってくるという。

答辞を述べたのは元生徒会長の高梨恭一さん(3D)。初めに、卒業式を開いてくれたことに対する感謝を述べた。高梨さんは3年生になり、「最後の行事」「最後のテスト」「最後の」と言われるたびに悲しさを感じるとともに、その言葉が自分を鼓舞してくれているように感じていたそう。

「悔しい思いも人生の糧」

「プレッシャーを感じるのではなく、楽しんでください」というユルゲンクropp監督の言葉から始まった学年主任である納富健児先生のお話。この言葉は59回生の入学式でも言われた。クropp監督はリヴァプールFCでは、後半6分という状況で3点差を追い上げた。決勝で敗れたという悔しい思いも、それが糧になっていると語った。



先生と一緒に、ダンス

それは59回生も同じだろうで、「行事がぶれることもあり、勉強や部活面でも思い通りにいかなかったと思います。ですが、それらすべてが人生の糧で高校生活の彩りになると思います」と話す。最後に「将来振り返って笑える思い出を作ってください」と締めくくった。

卒業生からアドバイス「勉強も遊びも頑張ろう」

卒業式を終えた三年生に心境を聞いた。大学生になったらバイトをたくさんして、海外に行ったり推しのライブに参加したりしたいと話したのは清武七望さん(3E)と高橋桐果さん(3E)の二人。3年間の高校生活で最も楽しかった行事は修学旅行だと話し「高生活で一番はっちゃけました」と振り返る。「一、二年生に向けて『三年生から勉強を始めるのは遅いので、早めに始めることがおすすめです。でも、色々な場所に行って遊べるのも今のうちなので、どちら



カメラに向けてポーズ

からも頑張ってください」とアドバイスを送った。卒業式を終えた59回生は、各々のホームルーム教室に戻り、各クラスの担任教師から卒業証書を受賞された。また、皆勤賞を受賞した生徒は賞状も受け取り、クラスからは大きな拍手が送られていた。最後の号令を前にすると「寂しいな」と名残惜しそうな先生もおり、生徒は笑顔で先生を見つめる。

むらさき草

2年生も終わり、いよいよ受験科目や志望校など様々な選択をしなければいけない時を迎えている。たくさんの選択肢がある中から自分の夢や学びたいことを軸に考えているが、時々この進路が正しいのか、後悔しないか不安に思う時がある。▼ところで、今年の3月で書道学習を始めてちょうど10年が経った。始めた当時は小学一年生で、書道には興味なかった。そのため、自分で望んで書道教室に通い始めたわけではなく、退屈だと思いつつも両親が「字を綺麗に、丁寧に書けるようにならないか」と言うことに従ってしるし書通っていた▼そんな書道も、続けるうちに書道が長くなって毎週通うことは難しくなったが、なんとか時間を作って書道をしている。テスト期間など忙しいときは教室に行くことを面倒に感じてしまったりもするが、それでも書道が続けるという選択を後悔したことはない▼なぜ後悔したことがないのか、それはきっと、自分が興味を持ち、積極的に練習したこと、書風で感情や言葉表現することの楽しさに気づき、それを表す技術が上達して様々な賞をいただけること、自分にとっての心の書が増えつつあるからではないかと思う▼進路の選択も、後悔しないようにするには自分が楽しく勉強している必要がある。そのためには受験に向けて一生涯懸命勉強する必要があるだろう▼書道で満足のいく作品をかけた時の喜びを、受験を終えた先でも迎えて、過去の自分の選択を後悔しないように、これからの約一年で、たくさんの努力を積み上げたい。

青春の最終ページを刻む

59回生卒業を祝う会 開催

3月14日(木)第一体育館、爆笑の渦に包まれた。卒業式が行われた。卒業生3日が行ったのはハモリ我慢ゲーム。テレビ番組「バナナサンド」で行われており、曲のサビに入るとコーラスがハモリにのみならず、それにつられて歌い出すことができる。挑戦者は村原友里恵先生で「青葱さんのハモリデオ」スパーマリオテイーに挑戦した。ハモリデオ「スパーマリオテイー」につられることなく、見事に歌い上げた。3Aはみんなであんなに作った錦イージ、キノピオが錦城高校の先生方につつまるクイズに59回生が挑戦した。クイズター衣装に身を包んだ先生方が映し出され、驚きと笑い声が響いた。閉会式では各クラスの担任の先生方へ記念品の贈呈が行われた。学年主任の納富先生は「これからどんな時どんな場所でも、前向きに行動してください」と話して卒業式を閉じた。

積極的な学びで自分の道を切り開く

61回生探究活動 全国大会へ

61回生の探究活動の一環として3月17日(日)に開催された「TWICE AWARD 2023」に61回生の中から選出された2班が出場した。今号では、各班の発表内容や様子、出場者の感想を紹介する。(編集部共同取材・写真協力:石井智先生)

61回生探究活動について

1年生は3学期の探究の時間を活用して、TWICE・PLANの企業インタビューに取り組みました。

グループごとに『江崎グリコ』『森永乳業』『明治ホールディングス』『KDDI』『大塚製薬』『ローソン』『シチズン時計』の7社の中から1社を選び、その企業が実際に抱えている課題の解決に向かつて企画を考え、発表するというものだ。

2月7日に各クラスでクラス発表が行われ、クラス内投票の結果1位と2位になった全12クラス計24チームが全国大会に位置づけられる「TWICE AWARD」本戦に駒を進めた。

「TWICE AWARD」には日本全国から企業ごとに7チーム計49チームが選出され、当日は企業ごとに集まってプレゼンを行う。その中で最も魅力的なプレゼンをしたと評価されたチームに対して企業ごとに企業賞が贈られ、さらに企業賞に輝いた7チームの中から準グランプリ、グランプリが決められる。錦城の2チームは惜しくも企業賞は逃したものの、全国という大舞台で素晴らしいプレゼンを披露してくれた。

D組【オオミ】

ローソンについてプレゼンしたのはリーダーの尾崎翔哉さん、サブリーダーの小村昌史さん、小幡愛珠さん、宮坂悠史さんの4人からなる1Bの「オオミ」。

ローソンから課された指令である「自分たちのマチの小さな笑顔になる」という企画を学生が笑顔になる「ローソン」

1年生に向けて石井先生は、まずは「なぜ？」と思ったことを放置するのはなく、一歩踏み出して調べてみるのが大切であると語り、「現代は一つの企業で終身雇用されることが減り、時代は変わってきているので、将来のためにも色々なスキルをバランスよく身に付けてほしい」とメッセージを送った。

「なぜ？」を放置せずに。一歩前へ

1年生の探究を担当する石井先生に話を伺った。石井先生によると、探究の最終的な目標は社会の問題を自分ごととして考え、解決していくことであるという。3年間をかけてその目標を達成できるように1年次は探究学習の基礎的スキルの習得に重きを置いたという。

1年生の探究の様子を石井先生は「まだまだかもしれないが、上手な人が多いのですが、伝



出場を記念してローソン、TWICEPLANの代表者と写真撮影をする

のSDGsの取り組み2023を企画・提案すること」に沿って全国の小学生にローソンで売ってほしい新商品の企画、発表してもらい、優秀なものを実際に販売するという企画の実施を提案した。

「オオミ」のメンバーは実際に社会で活躍されている方からアドバイスをいただいていた。緊張にも負けることなく、できる限り滑舌良く発表することを心がけたというメンバー一同。

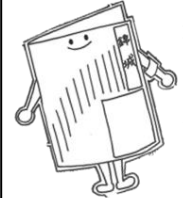
当日は、日本全国から選考された他の発表校のプレゼンを聞く機会があったそうで、「校内や地域の方などにアンケートを取ってみたり、具体的な数値を出してみたりなど、証拠を裏付けするような発表が多かったのが印象に残りました」と話してくれた。

「右肩上がり」

KDDIのプレゼンをしたのはリーダーの加藤健真さん、田中直人さん、岡村侑治さん、谷口航さん、丸地夏穂さんの5人からなるE組の「右肩上がり」。

5人は電気通信事業であるKDDIから課された指令である「Starlink」を活用した、「消滅可能性都市」で開催するIDAY限定の地域共創イベントを企画提案すること」に沿って「都市圏にその地域を知ることができ、施設をつくる」という企画を提案した。

新聞委員会新メンバー募集中!!



新年度から、一緒に新聞を作りませんか？
やりがいのある楽しい委員会です！



小平ロードを清掃している様子

生徒会が地域清掃に参加

3月10日(日)、FC東京と錦城高校の生徒が合同で小平市の地域清掃を行った。参加者を4グループに分け、小平駅から錦城高校にかけて、清掃を行った。

この活動は小平にある永田珈琲店が主催している地域清掃にFC東京や小平市役所の高校生事業委員会など参加しており、以前FC東京とつながりがあった錦城高校が地域清掃に呼んでもらうことができたようだ。地域清掃時に、FC東京の関係者の方が参加することはなかったが、元プロサッカー選手の吉本一謙さんが清掃に参加し、参加者との触れ合いを行った。

また、その後錦城高校前のFC東京グラウンドにてFC東京が練習している姿を見学することができた。実際に参加した中央委員会の佐々木晶大さん(1D)は「思っていたよりもゴミが集まり、驚きました」と語る。また「この活動を通して、たくさんの人と話することができました」と振り返る。佐々木さんによると、今後錦城高校主体で地域清掃を行うかもしれないそうだ。もし呼びかけがあったら、是非積極的に参加してほしい。(紫)

3月12日(火)にホールでサーが登場。セクシーな曲に合わせたダンスを踊り、被っていた帽子を観客に向けて投げた。パフォーマンスでは大きな歓声が上がった。



指先まで集中して踊る

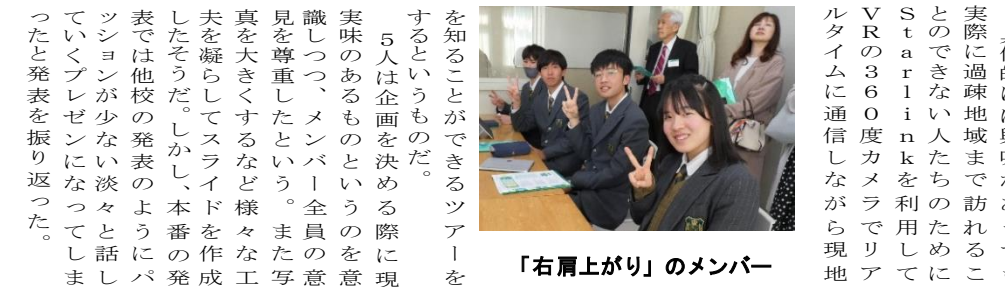
裸足で行われた26曲のCと27曲のKDC&KBZによる「なんでもないや」では水色の衣装での舞が見られた。「Ending」ではダンサーが順に観客のもとに降りてきてパフォーマンスを見せたりハイタッチをしたりなどし、観客は歓声を上げながら手を振ったりハイタッチに答えたりしながら近い距離での公演を楽しんだ。最後にはMs. GREENAPPLEの「CHEER」でのダンスが披露され、公演は幕を下ろした。

1学年による「HiP」では低い音が響く音楽にのせ、体を大きく使ったダンスが見られた。2学年による「Girls」では、黒に赤のデザインが映えた衣装に身を包んだダン

3月10日(日) 2/28~3/21 生徒会 勤労 地域清掃 (FC東京・FC東京サポーターの方々と共に)

大会報告

陸上競技部 3月18日(日) 第35回U20選抜競歩大会 早川愛花(2L) 7位入賞 24分36秒



「右肩上がり」のメンバー

自分の興味と世界を広げる

60回生探究学年発表会開催



60回生の探究活動について語る

2学年の探究学習では、関心のある分野が似ている生徒同士で班を作り、それぞれに課題を設定して、発表をするという活動を行った。2月28日(水)に、クラス代表のグループによる学年発表会が行われた。今回は、EFGH組とIJKL組の発表の様子を取材した。

E組は『大人になるとは』をテーマにした発表を行った。10代から60代を対象に行われたアンケート結果を紹介し、成人式を終えて自分が大人になったと考える人が多いと述べた。

F組は『ディズニーはなぜ人気なのか?』という疑問の解決のために調べた内容を発表した。その結果、長時間の待ち時間を解決するための対策の立案や、世界観にあったキャストを選ぶなどの様々な企業の努力があったことが分かったという。

G組は『流行は繰り返すものである』という仮説を立て、その仮説が正しいものなのかを調査した結果を話した。調べてみると、現在流行っているY2Kは1990年から2000年にかけて流行したものであることが分かったという。このことから班では2024年の色、服装のトレンドを予想したそうだ。

H組は『身長は伸びは何と関連しているのか?』という疑問から、クラス内でのアンケート結果を発表した。アンケートによると、遺伝、睡眠の他に食事や生活習慣も大きく関係していることが分かったことを述べた。

3階のホールではI・K・L組(J組は学級閉鎖のため中止)が発表を行った。I組は日焼け止め、K組は筋肉があれば女子にもてるのかという発表を行った中で、特に観客から大きな拍手をもらったのはL組。L組は昆虫について発表を行った。昆虫は小さいから身体能力が高いのではないかと仮説を立て、人間が小さくなったら最強になれるのではないかと考えた。しかし、目の大きさや進化の過程などの問題で不可能ということが分かった。それでも、身長5cm、体重1.7kgの最強生物『ツヨシ』をどうしても作りたいと考えたL組は様々な身体構造に着目した。その中で調査を進めるうえで、アギトアリなど昆虫の優れた身体構造を人間は道具で代用しているという結論に至った。

60回生の探究学習のテーマは、自分の興味を深めること、自分の世界を広げることの2つ。今回の学年発表会を聞いた担当の西塚由紀子先生は「着眼点や、結論へのアプローチの仕方が個性的で面白かったです。また各自自分の決めたテーマについてきちんと調べていたり、発表にも工夫が凝らされていたりと、新しい気づきがありました」と話した。来年度の60回生の探究学習は、今年とテーマは同じままに新たな活動が行われるそうだ。(紫)